

感染症患者発生情報（週報）

埼玉県内情報 2025年 第2週（1月6日～1月12日）

一類及び二類（結核を除く）感染症	報告なし		
三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症	2人	類型	患者 1人、 無症状病原体保有者 1人 血清型 O111 1人、O145 1人
四類感染症 レジオネラ症	2人	類型	肺炎型 2人
五類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4人	菌種	<i>Enterobacter</i> sp. 2人、 <i>Klebsiella</i> sp. 2人
急性脳炎	3人	病原体	インフルエンザウイルスA型 1人、 不明 2人
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5人	血清群	A群 2人、B群 1人、 G群 2人
後天性免疫不全症候群	1人	病型	AIDS
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1人		
侵襲性髄膜炎菌感染症	1人	推定感染地域	国内
侵襲性肺炎球菌感染症	8人		
水痘（入院例）	1人	病型	臨床診断例
梅毒	10人	病型	早期顕症Ⅰ期 4人、 早期顕症Ⅱ期 4人、 無症状病原体保有者 2人
百日咳	9人	年齢階級	9歳 1人、10歳代 5人、 40歳代 3人

<定点把握対象疾患の患者情報>

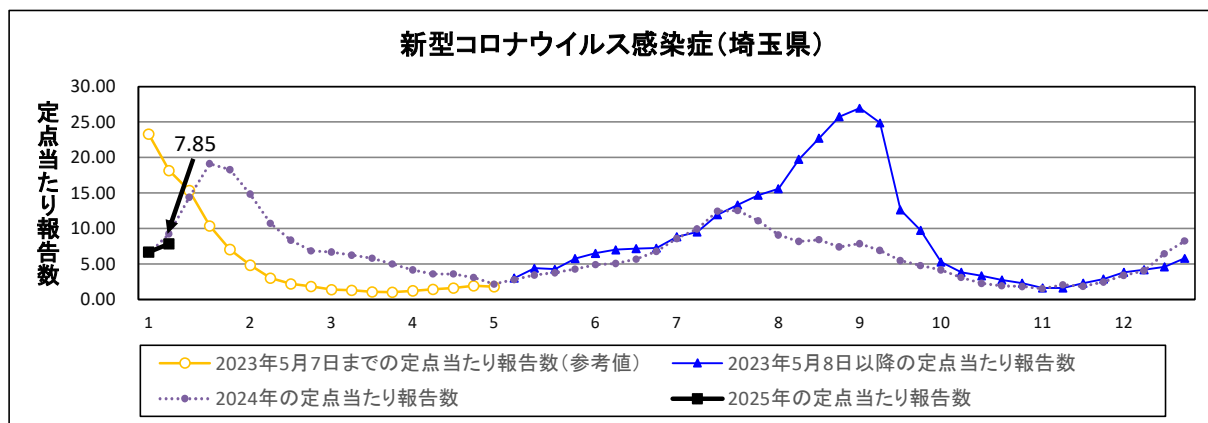
新型コロナウイルス感染症（8.25→6.67*→7.85:図1）の定点当たり報告数は、2週前である2024年第52週と比較して同水準であった。保健所別では、幸手（15.43）、坂戸（12.30）、熊谷（12.08）、南部（11.50）保健所管内からの報告が多い。基幹定点における**入院患者**の報告は69人（前週89人）であり、年齢階級別では、70歳以上が約84%であった。**インフルエンザ**（76.56→45.85*→34.98:図2-1～4）の定点当たり報告数は、2週前と比較して減少したが、依然として多い状況にある。保健所別では、幸手（50.29）、春日部（47.60）、草加（46.89）、鴻巣（46.05）保健所管内からの報告が多い。また、基幹定点報告疾患の**インフルエンザ（入院）**（図2-4）は83人（前週156人）であり、前週と比較して減少した。インフルエンザ（入院）の年齢階級別では、70歳以上の報告が全体の約65%であった。**伝染性紅斑**（2.74→0.79*→2.83）の定点当たり報告数は、2週前と比較して同水準であり、依然として多い状況が続いている。保健所別では、南部（5.80）、川口市（4.62）、さいたま市（4.00）、朝霞（3.93）保健所管内からの報告が多い。眼科定点報告疾患では、**急性出血性結膜炎**17人、**流行性角結膜炎**37人の報告があった。基幹定点報告疾患では、**細菌性髄膜炎**1人、**無菌性髄膜炎**1人、**マイコプラズマ肺炎**19人（前週24人）の報告があった。

※ 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ（URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>）で御覧になれます。

* 遅れ報告・修正報告を反映した値を掲載。

<新型コロナウイルス感染症発生状況（第2週）－小児科定点・内科定点からの報告－>

図1 新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数の推移



<インフルエンザ流行情報（第2週）－小児科定点・内科定点からの報告－>

図2-1 インフルエンザの定点当たり報告数の推移

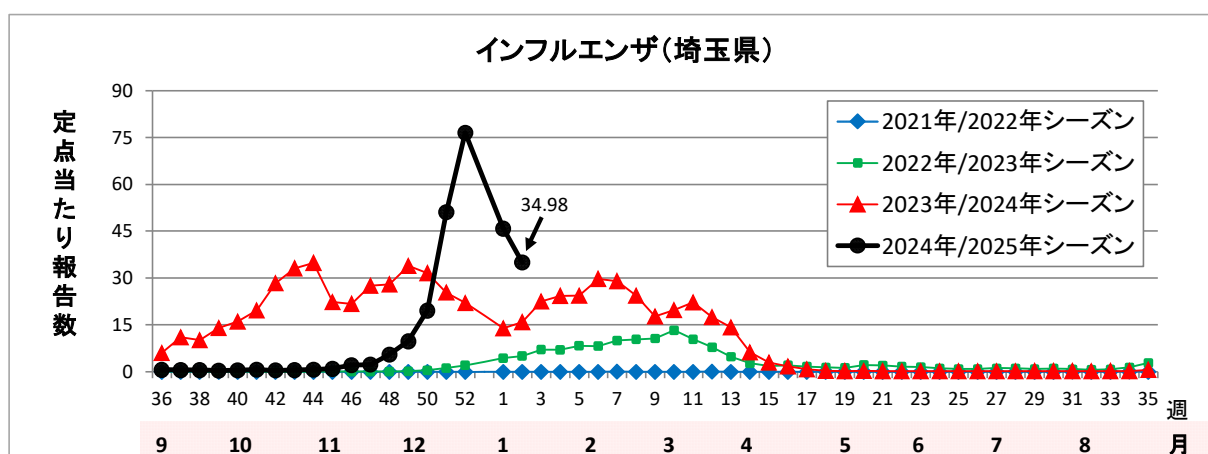
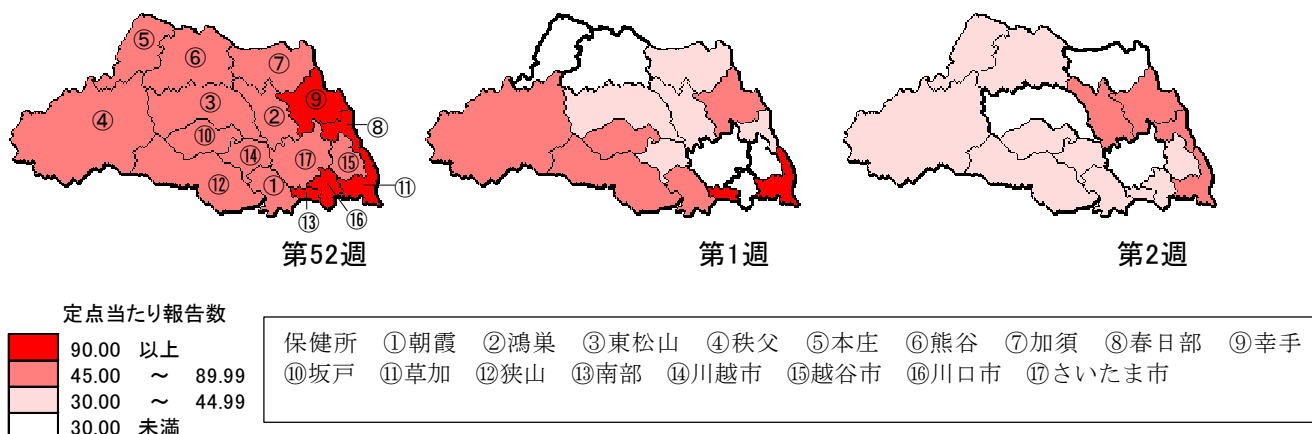


図2-2 インフルエンザの保健所別流行状況の推移（2024年第52週～2025年第2週）



感染症発生状況(全数把握対象疾患)
(第2週)

(2025年1月14日 15:30集計)

	今週 届出	累 計	2024年 累計		今週 届出	累 計	2024年 累計
一類感染症							
エボラ出血熱				ペスト			
クリミア・コンゴ出血熱				マールブルグ病			
痘そう				ラッサ熱			
南米出血熱							
二類感染症							
急性灰白髄炎				中東呼吸器症候群(MERS)			
結核*1	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)			
ジフテリア				鳥インフルエンザ(H7N9)			
重症急性呼吸器症候群(SARS)							
三類感染症							
コレラ				腸チフス			2
細菌性赤痢			2	パラチフス			
腸管出血性大腸菌感染症	2	1	183				
四類感染症							
E型肝炎			39	東部ウマ脳炎			
ウエストナイル熱				鳥インフルエンザ*(H5N1及びH7N9を除く)			
A型肝炎			4	ニパウイルス感染症			
エキノコックス症				日本紅斑熱			1
エムボックス				日本脳炎			1
黄熱				ハンタウイルス肺症候群			
オウム病				Bウイルス病			
オムスク出血熱				鼻疽			
回帰熱				ブルセラ症			1
キャサヌル森林病				ベネズエラウマ脳炎			
Q熱				ヘンドラウイルス感染症			
狂犬病				発しんチフス			
コクシジオイデス症				ボツリヌス症			
ジカウイルス感染症				マラリア			3
重症熱性血小板減少症候群				野兔病			
腎症候性出血熱				ライム病			1
西部ウマ脳炎				リッサウイルス感染症			
ダニ媒介脳炎				リフトバレー熱			
炭疽				類鼻疽			1
チクングニア熱				レジオネラ症	2	2	141
つつが虫病			3	レプトスピラ症			1
デング熱			11	ロッキー山紅斑熱			
五類感染症							
アメーバ赤痢			26	侵襲性肺炎球菌感染症	8	9	97
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)			17	水痘(入院例に限る)	1	1	5
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4	4	103	先天性風しん症候群			
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)			1	梅毒	10	7	476
急性脳炎	3	3	28	播種性クリプトコックス症			8
クリプトスポリジウム症				破傷風			2
クロイツフェルト・ヤコブ病			2	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	5	108	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			
後天性免疫不全症候群	1	1	33	百日咳	9	7	172
ジアルジア症				風しん			1
侵襲性インフルエンザ ^a 菌感染症	1	1	30	麻しん			8
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	1	1	薬剤耐性アシネトバクター感染症			1

累計は診断日で集計

*1 結核は月単位で集計、別に掲載します。

感染症発生状況(定点把握対象疾患)

報告患者数

保健所別

(2025年第2週

1月6日~1月12日)

保 健 所	報告数 定点当たり	インフルエンザ	新型コロナウイルス	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ (入院)	新型コロナウイルス感染症 (入院)
		#1	感染症	感染症												#2		#3				
全 県	報告数 792	2,049	67	38	324	749	72	44	464	25	-	9	17	37	1	1	19	-	-	-	83	69
	34.98	7.85	0.41	0.23	1.98	4.57	0.44	0.27	2.83	0.15	-	0.05	0.40	0.88	0.08	0.08	1.58	-	-	-	6.92	5.75
朝 霞	報告数 875	167	1	2	48	89	10	4	59	-	-	-	-	3	1	-	1	-	-	-	14	5
	34.43	7.26	0.07	0.13	3.20	5.93	0.67	0.27	3.93	-	-	-	-	0.75	1.00	-	1.00	-	-	-	14.00	5.00
鴻 巣	報告数 127	165	1	8	24	68	1	-	33	1	-	2	-	8	*	*	*	*	*	*	*	*
	46.05	8.68	0.08	0.67	2.00	5.67	0.08	-	2.75	0.08	-	0.17	-	2.67	*	*	*	*	*	*	*	*
東 松 山	報告数 171	38	-	-	2	17	2	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	15.88	4.75	-	-	0.40	3.40	0.40	0.20	1.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.00
秩 父	報告数 261	41	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	*	*	-	-	-	-	-	-	6
	34.20	8.20	1.00	0.33	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	*	*	-	-	-	-	-	-	6.00
本 庄	報告数 410	44	1	-	-	-	8	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	37.29	6.29	0.25	-	-	-	2.00	-	0.75	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.00
熊 谷	報告数 257	157	3	2	12	28	-	3	7	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	15
	31.54	12.08	0.38	0.25	1.50	3.50	-	0.38	0.88	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	15.00
加 須	報告数 476	61	9	1	1	2	1	5	2	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	8
	25.70	6.10	1.50	0.17	0.17	0.33	0.17	0.83	0.33	0.33	-	-	-	2.00	-	-	-	-	-	-	-	8.00
春 日 部	報告数 704	83	2	6	15	44	-	-	13	-	-	-	-	-	*	*	*	*	*	*	*	*
	47.60	8.30	0.33	1.00	2.50	7.33	-	-	2.17	-	-	-	-	-	*	*	*	*	*	*	*	*
幸 手	報告数 364	216	11	2	22	26	1	3	19	1	-	-	-	1	*	*	*	*	*	*	*	*
	50.29	15.43	1.22	0.22	2.44	2.89	0.11	0.33	2.11	0.11	-	-	-	0.50	*	*	*	*	*	*	*	*
坂 戸	報告数 891	123	-	1	2	40	7	1	7	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	36.40	12.30	-	0.17	0.33	6.67	1.17	0.17	1.17	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.00
草 加	報告数 482	181	3	1	10	61	3	5	34	1	-	-	-	1	*	*	*	*	*	*	*	*
	46.89	9.53	0.25	0.08	0.83	5.08	0.25	0.42	2.83	0.08	-	-	-	0.33	*	*	*	*	*	*	*	*
狭 山	報告数 290	205	11	-	46	44	9	-	43	2	-	-	17	2	-	-	6	-	-	-	7	
	34.60	8.20	0.69	-	2.88	2.75	0.56	-	2.69	0.13	-	-	3.40	0.40	-	-	6.00	-	-	-	7.00	
南 部	報告数 481	92	6	3	36	34	3	-	29	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	
	36.25	11.50	1.20	0.60	7.20	6.80	0.60	-	5.80	-	-	-	-	-	-	-	1.00	-	-	-	2.00	
川 越 市	報告数 482	75	-	5	13	20	4	2	15	4	-	-	-	6	*	*	*	*	*	*	*	
	34.36	5.36	-	0.63	1.63	2.50	0.50	0.25	1.88	0.50	-	-	-	3.00	*	*	*	*	*	*	*	
越 谷 市	報告数 701	115	2	-	10	48	2	2	22	1	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	3	
	37.08	8.85	0.25	-	1.25	6.00	0.25	0.25	2.75	0.13	-	-	-	-	-	1.00	5.00	-	-	-	3.00	
川 口 市	報告数 984	124	3	2	24	83	4	-	60	3	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	10	
	35.05	6.20	0.23	0.15	1.85	6.38	0.31	-	4.62	0.23	-	0.15	-	0.75	-	-	-	-	-	-	10.00	
さいたま市	報告数 984	162	11	4	57	145	17	18	112	9	-	2	-	10	-	-	6	-	-	-	12	
	22.88	3.77	0.39	0.14	2.04	5.18	0.61	0.64	4.00	0.32	-	0.07	-	1.11	-	-	6.00	-	-	-	12.00	

(- : 0.00)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

1月

14日

15:15 集計

感染症発生状況(定点把握対象疾患)	報告患者数																				
	年齢別										(2025年第2週 1月6日~1月12日)										
	合計	-6カ月	-12カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ #1	9,131	40	124	410	432	435	420	403	382	316	277	246	967	483	675	700	872	899	385	362	303
新型コロナウイルス感染症	2,049	19	33	60	20	27	17	8	9	22	20	14	87	99	245	226	250	296	209	189	199
	合計	-6カ月	-12カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~						
RSウイルス感染症	67	21	17	17	4	2	3	-	-	-	1	-	-	-	2						
咽頭結膜熱	38	1	4	11	8	4	3	1	2	2	-	-	1	-	1						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	324	1	3	6	22	22	41	34	28	33	26	31	45	2	30						
感染性胃腸炎	749	7	49	83	84	54	68	56	62	26	40	37	87	18	78						
水痘	72	1	1	-	2	1	-	10	7	7	12	7	22	1	1						
手足口病	44	-	2	6	3	13	5	3	3	2	3	-	3	-	1						
伝染性紅斑	464	-	2	17	31	46	64	93	73	39	48	26	24	-	1						
突発性発しん	25	-	4	18	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎	9	-	-	-	-	-	3	-	1	2	1	-	2	-	-						
	合計	-6カ月	-12カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	17	1	-	-	1	-	-	-	-	-	2	1	1	1	1	5	1	1	2	-	
流行性角結膜炎	37	-	-	1	-	1	-	1	2	1	-	1	4	1	5	5	7	3	4	1	
	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~				
細菌性髄膜炎 #2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-				
無菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
マイコプラズマ肺炎	19	-	-	4	7	2	2	1	-	1	-	-	1	-	-	1	-				
クラミジア肺炎 #3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
ロタウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
インフルエンザ(入院)	83	1	9	6	-	-	1	-	1	-	-	-	1	3	3	4	54				
新型コロナウイルス感染症(入院)	69	1	1	-	1	1	-	2	-	-	-	-	-	2	2	1	58				

※ 表中の数値は各定点からの報告数(- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

全国・関東情報

第51週 (12月16日～12月22日)

令和7年1月15日

<全国情報>

インフルエンザ／COVID-19定点報告疾患:インフルエンザの定点当たり報告数は第43週以降増加が続いており、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は大分県(82.64)、鹿児島県(65.57)、佐賀県(61.62)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は3,115例と前週と比較して増加した。都道府県別では47都道府県から報告があり、年齢群別では0歳(94例)、1～9歳(638例)、10代(162例)、20代(41例)、30代(53例)、40代(93例)、50代(197例)、60代(280例)、70代(560例)、80歳以上(997例)であった。新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は第48週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は北海道(14.33)、岩手県(12.76)、茨城県(9.68)である。基幹定点からの新型コロナウイルス感染症入院サーベイランスにおける報告数は2,383例と前週と比較して増加した。都道府県別では47都道府県から報告があり、年齢群別では0歳(36例)、1～9歳(38例)、10代(18例)、20代(28例)、30代(24例)、40代(62例)、50代(103例)、60代(243例)、70代(641例)、80歳以上(1,190例)であった。

小児科定点報告疾患(主なもの):RSウイルス感染症の定点当たり報告数は第48週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は北海道(1.25)、大阪府(0.96)、栃木県(0.92)である。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第46週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は宮城県(1.33)、新潟県(1.00)、大分県(1.00)、佐賀県(0.96)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2週連続で横ばいであった。都道府県別の上位3位は宮城県(5.39)、茨城県(5.31)、北海道(5.06)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第48週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は大分県(12.72)、石川県(10.86)、富山県(9.82)である。手足口病の定点当たり報告数は第42週以降減少が続いているが、過去5年間の同時期の平均と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は山形県(2.82)、鹿児島県(2.49)、高知県(2.16)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は第48週以降増加が続いており、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は埼玉県(3.71)、東京都(3.03)、青森県(2.51)である。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第41週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は佐賀県(0.17)、熊本県(0.10)、新潟県(0.09)、徳島県(0.09)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位2位は愛媛県(0.14)、宮城県(0.09)、島根県(0.09)、佐賀県(0.09)である。

基幹定点報告疾患:マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は青森県(4.00)、愛知県(2.67)、広島県(2.65)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は減少した。6都道府県から8例報告があり、年齢群別では1～4歳(3例)、5～9歳(5例)であった。

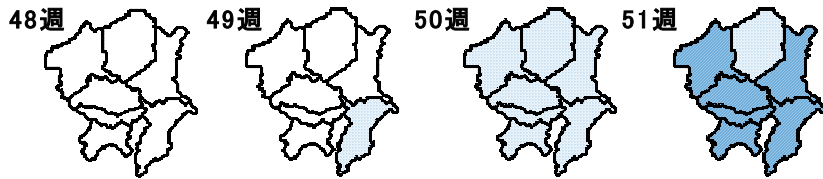
Infectious Diseases Weekly Report Japan 2024年 第51週(12月16日～12月22日):通巻第26巻 第51号 より

<関東情報>

インフルエンザの定点当たり報告数は、栃木県を除いた関東全域で警報レベル開始基準値である30.00を上回っており、特に千葉県(60.03)からの報告が多い。

インフルエンザ

- 30.00 以上
- 10.00 ～ 30.00
- 10.00 未満



2024年 51週

	全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数 211,049 定点当たり 42.66	69,301 45.24	4,295 35.79	1,943 25.57	2,905 34.18	13,326 51.06	12,187 60.03	16,727 40.02	17,918 48.56
新型コロナウイルス感染症	報告数 27,120 定点当たり 5.48	8,193 5.35	1,162 9.68	592 7.79	633 7.45	1,687 6.46	1,187 5.85	1,379 3.30	1,553 4.21
RSウイルス感染症	報告数 1,164 定点当たり 0.37	317 0.33	30 0.40	44 0.92	20 0.38	67 0.41	20 0.16	71 0.27	65 0.28
咽頭結膜熱	報告数 1,390 定点当たり 0.44	364 0.38	45 0.60	23 0.48	24 0.45	96 0.59	39 0.31	80 0.30	57 0.24
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数 8,200 定点当たり 2.61	2,764 2.87	398 5.31	121 2.52	73 1.38	444 2.71	471 3.74	827 3.13	430 1.85
感染性胃腸炎	報告数 16,305 定点当たり 5.19	5,446 5.66	259 3.45	148 3.08	325 6.13	972 5.93	659 5.23	1,783 6.75	1,300 5.58
水痘	報告数 1,050 定点当たり 0.33	408 0.42	15 0.20	20 0.42	20 0.38	71 0.43	33 0.26	157 0.59	92 0.39
手足口病	報告数 2,788 定点当たり 0.89	823 0.85	73 0.97	52 1.08	37 0.70	183 1.12	143 1.13	170 0.64	165 0.71
伝染性紅斑	報告数 3,076 定点当たり 0.98	2,307 2.40	43 0.57	108 2.25	21 0.40	608 3.71	277 2.20	801 3.03	449 1.93
突発性発しん	報告数 710 定点当たり 0.23	200 0.21	8 0.11	13 0.27	15 0.28	30 0.18	26 0.21	70 0.27	38 0.16
ヘルパンギーナ	報告数 74 定点当たり 0.02	18 0.02	3 0.04	- -	1 0.02	2 0.01	- -	4 0.02	8 0.03
流行性耳下腺炎	報告数 110 定点当たり 0.04	42 0.04	3 0.04	- -	- -	10 0.06	4 0.03	17 0.06	8 0.03
急性出血性結膜炎	報告数 43 定点当たり 0.06	14 0.07	- -	- -	1 0.07	12 0.29	1 0.03	- -	- -
流行性角結膜炎	報告数 587 定点当たり 0.84	224 1.06	52 3.06	6 0.50	7 0.50	37 0.88	31 0.89	36 0.92	55 1.06
細菌性髄膜炎 #2	報告数 12 定点当たり 0.03	3 0.03	- -	- -	- -	- -	- -	2 0.08	1 0.08
無菌性髄膜炎	報告数 8 定点当たり 0.02	2 0.02	- -	- -	1 0.11	- -	- -	- -	1 0.08
マイコプラズマ肺炎	報告数 729 定点当たり 1.52	139 1.60	26 2.00	12 1.71	12 1.33	21 1.75	12 1.33	47 1.88	9 0.75
クラミジア肺炎 #3	報告数 4 定点当たり 0.01	2 0.02	- -	- -	- -	- -	- -	2 0.08	- -
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数 8 定点当たり 0.02	3 0.03	- -	- -	1 0.11	- -	- -	1 0.04	1 0.08

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-0.00)

☆ この情報は感染症法に基づく感染症発生動向調査により、埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所の病原体検査情報をまとめたものです。

今月のコメント

急性呼吸器サーベイランスでは152検体が採取され、インフルエンザAH1pdm09亜型が89件（58.6%）と最も多く検出されました。11月（検体数：156検体、検出数：44件（28.2%））に比べ、2倍に増加しました。

細菌検出状況

令和6年12月31日現在

臨床診断名	病原体名	採取月			備考(12月分)
		10月	11月	12月	
腸管出血性大腸菌感染症	腸管出血性大腸菌O157	13	14	2	H7(VT1&2):1、H-(VT1&2):1
	腸管出血性大腸菌O111	2			
	腸管出血性大腸菌その他	7	3	5	O115:H10(VT1):4、O103:H-(VT2):1

令和6年12月31日現在

臨床診断名	病原体名	採取月			備考(12月分)
		10月	11月	12月	
つつが虫病	<i>Orientia tsutsugamushi</i> (PCR陽性)			1	
レジオネラ症	<i>Legionella pneumophila</i> SG1	2	3	1	
	<i>Legionella</i> spp. (LAMP陽性)	1	1		

令和6年12月31日現在

臨床診断名	病原体名	採取月			備考(12月分)
		10月	11月	12月	
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)感染症	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	2		
	<i>Klebsiella pneumoniae</i>		2		
	<i>Enterobacter cloacae</i> complex	7	2		
	<i>Escherichia coli</i>	1		1	
	<i>Serratia marcescens</i>		1	1	
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	A群レンサ球菌(<i>Streptococcus pyogenes</i>)	1	3	1	
	B群レンサ球菌(<i>Streptococcus agalactiae</i>)	2	1	1	
	G群レンサ球菌	2	1		

ウイルス検出状況

全数把握対象疾患

令和7年1月8日 現在(累計: 令和6年1月~)

臨床診断名	ウイルス	採取月			
		10月	11月	12月	累計
E型肝炎	検体数	1	3	1	47
	E型肝炎		2	1	25
A型肝炎	検体数				3
	A型肝炎				
エムボックス	検体数				1
	エムボックス				
重症熱性血小板減少症候群	検体数	1			1
	SFTS				
デング熱	検体数		1		17
	デング				9

無菌性髄膜炎からのエコーウイルス 11 型の検出

無菌性髄膜炎の起因ウイルスは、ムンプスウイルスやパレコウイルス、単純ヘルペスウイルス等もありますが、その多くはエンテロウイルス属のウイルスとなっています。病原微生物検出情報 IASR^{*1} で全国の過去 10 年のエンテロウイルス属検出状況を見ると、エコーウイルス 6, 11, 18 型、コクサッキーウイルス B2, 4, 5 型、コクサッキーウイルス A9 型、エンテロウイルス A71 型等、様々なウイルスが検出されていますが、流行の主流となる血清型は年によって異なります。

埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターにおける検査でも、2024 年 8 月から 11 月にかけて無菌性髄膜炎の検体からエンテロウイルス属のウイルスが多く検出されました。最も多かったのはエコーウイルス 11 型 (E11) で、エンテロウイルス属が検出された 26 症例中 12 症例 (33 件) から検出されました (図)。

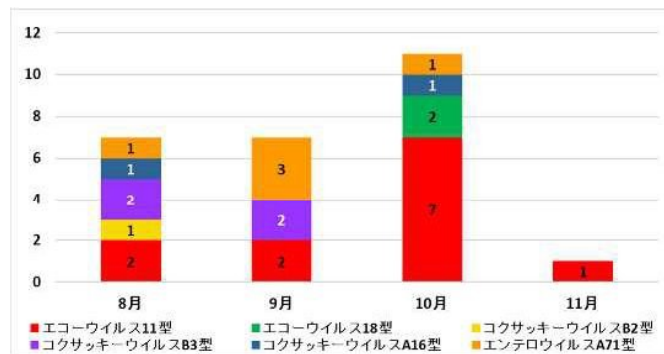


図 無菌性髄膜炎検体からのエンテロウイルス属検出状況 (症例数)

E11 が検出された症例はすべて 1 歳未満児で、髄液、血液、咽頭ぬぐい液、便等、様々な検体から検出されました。エンテロウイルス属では不顕性感染や長期間の便中への排泄があり得るため、咽頭ぬぐい液や便からの検出については慎重に解釈すべきものです。しかし、今回の E11 が検出された 12 症例中 9 症例においては髄液が採取されており、この 9 症例中 8 症例は咽頭ぬぐい液や便のみならず髄液からも E11 が検出されていることから、髄膜炎の起因ウイルスである可能性が高い状況です。

新生児の E11 感染症については、日本小児科学会の注意喚起^{*2}を受けて厚生労働省が令和 6 年 12 月 3 日付事務連絡で注意喚起及び情報提供依頼^{*3}を行っています。日本小児科学会によれば、新生児の重症 E11 感染症では、黄疸、肝腫大、腹水及び出血傾向を示す劇症肝炎のほか、髄膜炎や心筋炎の報告もあるとされています。埼玉県内でもウイルス性肝炎検体から E11 が検出されており、この症例も 1 歳未満児でした。

全国で病原体検出情報システムに登録された E11 は 2018-2019 年に集積があり、2024 年はこの 2 年に次いで多い状況となっています^{*4}。

今後も E11 の動向に注視していきます。

*1 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>

*2 <https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20241211echovrus.pdf>

*3 <https://www.mhlw.go.jp/content/001345108.pdf>

*4 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/entero/680-idsc/13033-info-241211.html>

**感染症発生動向調査
2025年**

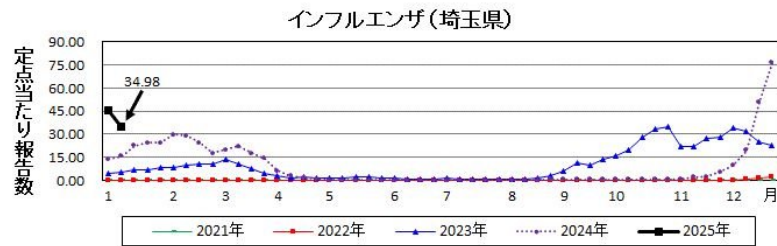
▶ [感染症の流行状況 2025年 第1週](#)

感染症の流行状況 2025年 第2週

2025年第2週（1月6日～1月12日）の要点

[インフルエンザ](#)の定点当たり報告数は34.98であり、2024年第52週と比較して減少しましたが、依然として多い状況にあります。

[咳エチケット](#)、外出後の手洗いとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早めに受診してください。



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
インフルエンザ	↓	★★★	手足口病	↓	★
新型コロナウイルス感染症	→	—	伝染性紅斑（りんご病）	→	★★★★
RSウイルス感染症	→	★	突発性発しん	→	★
咽頭結膜熱（プール熱）	↓	★	ヘルパンギーナ	→	★
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	★	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	→	★
感染性胃腸炎	→	★	急性出血性結膜炎	→	★★
水痘（みずぼうそう）	→	★	流行性角結膜炎	→	★★

*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。*2.推移は2週間前からの傾向を示します。(→:増減無し、↑:増加、↓:減少) *3.流行状況は今週の流行を示します。(小さい→★、★★、★★★→大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。

また、全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](#)」でご覧になれます。



埼玉県のマスコット コバトン